

# DV 家庭に育った子ども支援の展開

## ～派遣プログラムの実施～

Group program for children exposed to domestic violence

渡邊佳代 安田裕子 村本邦子

WATANABE, Kayo YASUDA, Yuko MURAMOTO, Kuniko

NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク / 女性ライフサイクル研究所

(NPO FLC Network for creating communities of safety and connection / Feminine Life Cycle Institute, LTD.)

Key words: Domestic Violence, Concurrent Group Program, Community Support

### 目的

DV 家庭に育つ子どもは、暴力のある関係性の中で誤って身につけた認知や行動を学び直すための関わりや場の設定が必要とされる。NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク (<http://www.flcflc.com/tsunagari/>) の DV 子どもプロジェクトでは、DV 被害にあった子どもへの予防的支援を行うため、安全に仲間とともに楽しい時間を過ごす場を設定すること、

ストレスマネジメントや自尊感情の向上を目的としたプログラムの開発・実施を行った。本プログラムは子ども支援に焦点を当てながら、母親には子どもの変化を支えるための支援を目的とし、母子並行プログラムの形式とした。

### 方法

かつて DV 被害にあり、現在は安全が確保されている幼児～小学生までの子どもとその母親を対象とした。母子が気軽に集まって来られる場の設定や馴染みやすいツールを用いることに配慮し、2007 年より民間・公的機関のシェルターにて月 1 回程度（1 回 90 分、延べ 36 回）の母子並行オープン・グループを行った。子どもグループでは、工作や絵本の読みあい、身体を使った遊びなどを通してストレスマネジメントや感情表現を学び、スタッフは必要に応じて言葉による葛藤解決のサポートを行った。母親グループでは、子育てに関するフリートークを行いながら呼吸法やアロマ・ハンドマッサージなど、身体への働きかけを中心としたセルフケアを行った。プログラム評価は、毎回プログラム終了後にスタッフ間で行い、2～3 ヶ月に 1 度はシェルタースタッフを交えた評価を行って、プログラムの適切性を確認しながら実施した。また、2010 年 4 月にシェルタースタッフによる利用者へのインタビュー調査においても評価を行った。

### 結果

プログラムには継続して参加する母子が多く見られた。初めはプログラムの中で緊張して身体をこわばらせていた子どもたちが、次第に伸び伸びとプログラムを楽

しんだり、葛藤場面ではスタッフの介入や他の子どもの助けによって行動化せずに自分の気持ちを言語化する様子がスタッフにより確認された。インタビュー調査では、プログラム中での子どもの変化や成長をスタッフが母親にフィードバックすることにより、母親が新たな視点を得たり、自身の関わり方のヒントにして普段の親子関係でも変化と成長が見られたと報告された。また、シェルタースタッフからは、母子が地域でのつながりを持ち始め、シェルターでも自発的な複数のグループが派生したと報告された。

### 考察

安心して気軽に参加でき、多様な表現を可能にする守られた場では、子どもが緩やかに人や場とつながり直していくと考えられる。母親グループでも、安心して子どもと離れる時間を持ち互いにケアし合うワークを通して、ピアサポートのつながりが育まれてきた。子どもの変化を支える母親への支援が当初の目的であったが、このような副次的効果が生じ、結果としてコミュニティ支援にもつながったと考えられる。

本プログラムの課題として、DV 被害状況や回復段階が異なり、子どもの年齢層も様々なオープン・グループであることと、単発・継続的に参加する母子のニーズがそれぞれに異なることが挙げられる。今後は幅広く柔軟な支援体制やスタッフ数の確保と養成が望まれるであろう。

DV 被害に傷ついた母子の回復段階やライフサイクルに合わせて、コミュニティでの多様な支援システムの構築が今後も求められる。本プロジェクトの母子並行プログラムが、支援現場を巻き込みコミュニティの有り様に根差した、子ども支援と女性支援をつなぐ仕組みづくりの一助となっていけたらと考えている。

### 参考文献

DV 子どもプロジェクト(2007) 『DV 家庭に育った子ども支援の試み～派遣プログラムの展開～報告書』  
渡邊佳代(2010) 『DV・虐待被害にあった母子への支援をめぐる 20 年』 『女性ライフサイクル研究第 20 号』